

# 日本創造学会

## JCS NEWSLETTER

JUNE, 2010



### 第32回日本創造学会研究大会

海外から多彩な研究者を迎えた  
国際大会が開催されます



大会実行委員長 徐方啓(副理事長)

2010年度の研究大会は、10月16日(土)から17日(日)に近畿大学で開催されます。今大会のテーマは「経営と教育における創造性とイノベーション」(Creativity and Innovation in Management and Education)です。経営の分野では知識創造理論で世界的に有名な野中郁次郎(一橋大学名誉教授)先生を、教育他の分野では海外の著名な学者を招き基調講演を行います。また、多くの方々に発表と交流の場を提供するため、国際セッション(外国の参加者)、会員セッション、院生セッションを設けます。奮って発表の申込みをお願い致します。

#### 10月16日基調講演1:野中郁次郎(一橋大学名誉教授)

略 歴: 1958年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、富士電機製造(株)入社。1972年カリフォルニア大学(バークレイ校)経営大学院博士課程修了(Ph.D.)。南山大学教授、防衛大学校教授、一橋大学商学部産業経営研究所長、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科長、一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授を経て、2006年より現職。スイスザンクトガレン大学経済科学名誉博士、ベルギールーヴァン・カトリック大学経済学・社会学名誉博士、フランスHEC Paris名誉博士、アメリカクレアモント大学ドラッカー・スクール名誉スカラー、アメリカアカデミーオブマネジメント・インターナショナル部門エミネントスカラー2002年春の紫綬褒章受賞、近畿大学経営イノベーション研究所名誉所長



#### 10月16日基調講演2:ボニエ・クレモンド(ジョージア大学教授)

略 歴: 1976年ニューオーリンズ大学初等教育学部卒業、1982年ジョージア大学大学院教育心理学博士課程修了(Ph.D.)。ジョージア大学助手、准教授、同大学トランス創造性と能力開発センター長を経て、2006年より現職。全米才能児協会理事、「The Journal of Secondary Gifted Education」前編集長、「Creativity Research Journal」編集委員、「Journal of Creative Behavior」編集委員、「Gifted Child Quarterly」編集委員。ジョージア才能児協会「トランス創造賞」(2004)ジョージア才能児協会「マガレット・バイナム賞」(2008)、全米才能児協会創造性分科会「トランス創造賞」(2009)を受賞。



#### 10月17日基調講演1:ホスト・ゲシュカ(ゲシュカ&パートナー コンサルタント会長)

略 歴: 1969年ドイツダムスタード工業大学卒業、1989年同大学大学院で技術経済学博士号を取得(Ph.D.)。バツェル記念研究所ドイツ支所に入社、長年にわたり企業におけるアイデア発想法の応用に携わり、1983年に独立し、現在に至る。1992年から2008年までダムスタード工業大学イノベーション・マネジメントとアントプレナーシップ講座主任教授。ヨーロッパ創造とイノベーション協会(EACI)創始者の一人、ドイツ創造学会初代会長、第4、第8回ヨーロッパ創造とイノベーション大会実行委員長。



**10月17日基調講演2: ウィリアム・ナシュ(テキサスA&M大学名誉教授)**

略 歴: 1965年ジョージア大学大学院教育心理学博士課程を修了 (Ed.D.)、テキサスA&M大学教育と人間発達学部助手、准教授、教授、同大学英才と能力研究所長を経て、2008年より現職。在職中、「知能、創造性と英才」博士課程を創設し、50数名のPh.Dを育成し、同大学傑出貢献賞、特別奉仕賞及びテキサス英才と能力協会会長賞、アメリカ創造学会生涯功労賞などを受賞。アメリカ創造学会(ACA)発起委員会委員長、全米才能児協会会長を歴任。

**10月17日ゲストスピーカー1: ジャナサン・フェインSTEIN**

略 歴: エール大学マネジメントスクールジョン・G・シャルル冠教授(経済学と経営学)、同大学ビジネスと環境センター長、全米セキュリティ経営学プログラムメンバー、同スクール研究賞、国際会議ベストペーパー賞を数多く受賞。

**10月17日ゲストスピーカー2: ミン・バサデュル**

略 歴: カナダマクマスター大学マイケル・デグラーテビジネススクールイノベーション教授(現在名誉教授)を勤める傍ら、バサデュル創造力応用社を経営している。「Creativity and Innovation Management」「Thinking and Problem Solving」「Creativity Research Journal」編集委員。

**10月17日ゲストスピーカー3: 羅玲玲**

略 歴: 中国東北大学文法学院科学技術と社会研究センター教授、中国創造学会常任理事、中国発明協会大学創造教育分会副理事長、台湾国立政治大学創造力とイノベーション研究センター顧問、香港パプティスト大学児童発達センター顧問、中国教育部「優秀教育成果賞」受賞。

**10月17日ゲストスピーカー4: マチュー・マニマラ**

略 歴: インドバンガロール経営大学組織行動論教授、イギリスエセックス大学起業とビジネススクールシニア・フェロー、30数カ国の学者が参加する国際研究プロジェクト「Global Entrepreneurship Monitor」のリーダー「South Asia Journal of Management」編集長。

**10月17日ゲストスピーカー5: イゴール・デュピナ**

略 歴: ロシアアルタイ州立大学経済情報システム准教授、「イノベーション・マネジメントとビジネスにおける創造的問題解決」「科学的創造性の方法論」を担当、同大学研究と国際連携委員会副委員長。アメリカジョージ・ワシントン大学客員研究員、ハンガリー中欧大学客員研究員を歴任。

**10月17日ゲストスピーカー6: カーパル・シング**

略 歴: シンガポール経営大学社会科学学部英文学と創造的思考准教授、詩人、作家、同大学ビジネススクールWKWセンター長。オーストラリアアデレード大学で博士号を取得、国立シンガポール大学講師、南洋工業大学準教授を経て現職。アメリカ創造学会副理事長。



**大 会 要 項**

- 参加方法 : 学会事務局までメールまたはFAXで参加申込書をご請求下さい。  
 発表申込 : 参加申込書を記入の際に発表申込欄にご記入ください。発表要項をお送りします。  
 日程 : 2010年10月16日(土)~17日(日)  
 会場 : 近畿大学東大阪校舎(大阪府東大阪市小若江3-4-1)  
 内容 : 講演会・懇親会・研究発表 など

**発表・参加申込の締切 : 7月末日 研究発表論文の締切 : 8月末日(厳守)**

**発表論文掲載料**

原稿(A4, 1680字) × 4枚 : 2000円  
 1枚追加ごとに1000円

論文の査読は特にありませんが、論文執筆要綱に従った形式で、記載内容は自己責任で投稿いただけるようお願いしております。投稿はデジタルデータと印刷の両方の送付をお願いしております。事務局への訂正の依頼等は受け付けられませんのでご了承ください。

**アクセス**

近鉄大阪線・長瀬駅下車徒歩約10分  
 近鉄奈良線・八戸ノ里駅下車徒歩約20分

**大会参加費**

	正会員	学生会員	非会員
事前払込み /	3000円	2500円	4000円
当日払い /	4000円	3000円	5000円

本大会は近畿大学との共催になりますので、大会1日目の講演会は近畿大学学生や関係者に公開されます。

**宿泊手配**

ご参加にあたって宿泊が必要になる方は個人で手配をお願い致します。

問い合わせ申込先: 学会事務局(巻末参照)

**日本創造学会第32回研究大会(仮)プログラム** 2010.6月現在 プログラムは都合により変更することがあります

2010年10月16日(土)		
時間	場所	行事内容
12:00~13:00	近畿大学経営学部21号館(8階会議室)	合同役員会議
13:10~14:40	近畿大学本館7階ホール	基調講演1: Dr.野中郁次郎(一橋大学名誉教授)
14:50~16:20	同上	基調講演2: Dr.ボニエ・クレモンド(アメリカジョージア大学教授)
16:40~17:40	近畿大学経営学部21号館(315教室)	会員総会
18:00~20:30	近畿大学本館地下食堂KURE(キュア)	懇親会・2009年度学会賞授賞式
2010年10月17日(日)		
9:00~12:15	経済学部B館(501教室)	国際セッション(招待講演3人を含む)
	経済学部B館(502教室)	院生セッション
	経済学部B館(503教室)	会員セッション
10:30~10:45		休憩
12:15~13:15		昼休み(大学食堂は休み、近所の弁当屋、牛丼屋、コンビニなどをご利用)
13:15~15:15	経済学部B館(501教室)	国際セッション(招待講演3人を含む)
	経済学部B館(502教室)	院生セッションまたは会員セッション
	経済学部B館(503教室)	会員セッション
15:15~15:30		休憩
15:30~16:30	経済学部B館(501教室)	基調講演3: Dr.ホスト・ゲシュカ(元ドイツ創造学会会長)
16:30~17:30	同上	基調講演4: Dr.ウィリアム・ナシュ(アメリカテキサスA&M大学名誉教授)
17:30~18:00	同上	大会優秀論文授賞式
		注)本年度は国際大会のため研究大会発表賞は大会優秀論文賞にかえて即日発表されます

## 2010年度第2回・第3回研究会報告

2010年度第2回研究会： 『創造的看護実践能力を育む「看護の意味の探究法」』  
 講師：池田慎悟氏（浜松市立看護専門学校）



講師の池田慎悟氏

3月27日（土）の第2回研究会は浜松市立看護専門学校の池田慎悟氏による『創造的看護実践能力を育む「看護の意味の探究法」』であった。受講年次の異なる複数の看護実習で継続してラベルワークが利用され、学習の有効化・深化が図られているようである。今回の報告は看護実習に基づくラベルワークの学習経験の意味を学生へのインタビュー・データから明らかにしようとするものであった。被験者が少ないことや代表性に多少弱い部分を感じたが、ラベルワークへの抵抗感と没入のパターン、没入者は成長の実感（体験知の創出、自他への関心）を伴うのは理解できる。また抵抗感の原因と対処法の明確化などは今後の課題と考えられる。

質疑の時間では、ラベルワークの原則に関する活発な議論があった。また最後に、恩田彰名誉会長から、治療とみとりを媒介する看護（広義にはケア）の重要性の指摘と看護教育への激励があり、日々看護教育で苦勞されている研究会参加者の方々を中心に拍手が湧きあがって終了となった。  
 （報告：理事長 奥正廣）

2010年度第3回研究会： 「日本人の創造性は東洋的発想と日本文化からパワーアップできる！」  
 講師：ウィリアム・リード氏

5月22日（土）、日本教育大学院大学で開催されました。講師は、大手前大学客員教授、早稲田大学ゲスト講師などを務められ多方面にわたってご活躍のウィリアム・リード先生。いつもと違い、音楽が流れリラックスした雰囲気の中で会は始まりました。道衣に黒帯、草履を履いての姿に皆さん驚かれたようですが、合気道七段、書道師範、なんば歩きなど、30数年前の来日以来、今日に到るまでの日本人以上に日本文化に精通、体得された先生が醸し出すソフトなムードにすっかり惹き込まれていました。

前半では、リード先生直筆の書「創」を見ながらの創造の定義について意見交換し、パワーポイントプレゼンやブレンストーミングの問題点や、発展途上国での未熟児救済技術の映像を見て、人の心を動かすプレゼン、世界で必要されている技術や創造性発揮のコミュニケーションについて考えました。その後、3×3の9マスと制限された空間内での思考法（マンダラチャート）を用いての人生計画表作成演習を行いました。後半は、タップダンスの貴重な映像を見、なんば歩きのエクササイズをグループで実践、東洋思想の陰陽、五行の考えからも、創造性を発揮するには、頭と身体両方を鍛えることが大切で、チーム活動も五行に照らして互いに協力し補い合えるように、それぞれの持ち味を活かすことが大切ということ学びました。

会員以外の参加、日本教育大学院大学の学生参加も含め、55名の方が参加され、盛会に終わりました。  
 （報告：評議員 片岡敏光）



講師のウィリアム・リード氏

### 発想力を鍛える - 第1回公開講演会/ワークショップ開催報告 -

5月15日、宮城学院女子大学発達科学研究所主催、日本創造学会創造技法普及研究会協力支援の公開講演会/ワークショップ「発想力を鍛える」が開催されました。参加者は60名を越え、盛況の内に実施され、同研究所長の足立教授、同学科長の西浦教授には厚く感謝申し上げます。

第一部では、創造学会理事の高橋誠氏が『発想力を鍛える』というテーマで、演習を交え発想力の伸ばし方について2時間ほど話されました。発想の仕方を学ぶ前後で約60%の発想数や観点数が増え、参加者一同発想を意識して行うことが、いかに大切かを実感しました。

第二部では、学会員で創造技法普及研究会のメンバーでもある新谷正伸氏が『自由連想法のワークショップ』を行いました。本ワークショップ開催は第1回目であり、研究会の他のメンバー（澁谷、佐藤、櫻井）もグループ活動のサポートを行いました。具体的には発達臨床学科の学生約50人に、頭の3つのさび、連想問題、ブレンスト - ミング（判断の保留、量を出す）の講義を、実習を随所に交えながら2時間行いました。修了後の参加者の感想は、（アンケート回答31名の内）とても参考になった19名 + まずまず参考になった11名（合計97%）、また再度受けてみたい26名（84%）と好評でした。グループ学習が楽しかったが13名おり、グループでの実習体験が特に良かったようで、ブレンストーミングの“わいわいがやがや”の体験学習に興味津津だったようです。今回の成功要因の一つは、ワークショップ前に高橋誠先生の講演があったことが良かったと思います。今後、今回の経験を活かし改善し2回目を東京にて一般公募方式で実施予定したいと考えています。



参加者の学生の皆さん

（報告：日本創造学会 発想技法普及研究会一同）

## 比嘉名誉学会長に感謝状と記念品を贈呈

比嘉佑典先生は本学会の創世記から関与され、長年にわたり評議員、理事を勤められ、副理事長、理事長を経て副会長の重責を担われました。現在は名誉学会長をなさっている、本学会にとっては大変かけがいのない人です。先生は沖縄の出身で、琉球大学をご卒業後、東洋大学に進学され、東洋大学の助手になるため修士課程を中退され、講師・助教授を経て1995年から教授に就任され、2010年に退官されました。その間、東洋大学アジア地域研究センター長なども勤められました。著書は「創造性開発の心理と教育」「沖縄チャンプルー文化創造論」「遊びと創造性の研究」など多数あり、また受賞は「青い海児童文学賞」、本学会の「著作賞」「研究発表論文賞」など多数があります。本学会30周年記念誌編纂の際にも尽力いただきました。

本年3月、東洋大学退官にあたり、先生の本学会へ長年の功勞に対する感謝の念を、学会員全員に代わり、拙文を書かせていただきました。先生、どうもありがとうございました。

(日本教育大学院大学:高橋誠(理事))



3月27日研究会後の懇親会会場にて  
奥理事長より比嘉先生に感謝状と記念品が贈呈されました。

## 第7回知識創造支援システムシンポジウム開催される



平成22年2月25(木)、26(金)日の両日、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科コラボルーム(2)で、日本創造学会および北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)主催の第7回知識創造支援システムシンポジウム開催された。延べ参加者は70名であった。

初日の招待講演は富山県立大学澤泉重一教授(正会員)の「セレンディピティの活用」と三村修グループ創造技法研究所代表による「K」法からみたアブダクションとセレンディピティであった。これを受けJAIST白肌邦生助教(正会員)による「企業内研究開発人材の発明・発見活動の分析」の研究発表、および樋口健夫アイデアマラソン研究所長(理事)による「アイデアマラソンとセレンディピティ」、小生による「知識科学とアブダクション」、江崎通彦DTCN国際代表(評議員)による「PMとSEのためのWork Breakdown Structureの再定義とその使い方の概要」による基調講演が行われた。この日はセレンディピティやアブダクションの特集だったので、夜の懇親会も創造性の本質談義に花開いた。二日目は岩政隆一ジイケイテック社長による「科学技術リタラシー(内容的にはアーチファクトの創造)」、セミナーと永井由佳里JAIST准教授(正会員)による「デザインと創造性」、樋口健夫による「グループアイデアマラソンの研修方法と効果」、岡田政則金沢学院大学教授による「教育環境におけるサービスサイエンスの適用」という3件の基調講演と8件の学生の研究発表が相次いだ。二日目は午前中がデザインと創造性の特集で、午後の学生の研究発表はほとんど学会の賞をいただいた優れた研究であったので質疑応答が盛り上がった。興味深いのはアイデアマラソンを用いて試作したJAIST宮田一乗教授グループのスパイダーヒーローで、国際会議でも招待作品になった。アイデアは形にして、始めて世の中に受け入れられることを実感した。(JAIST國藤進(会長))

## シンガポール「ナンヤン理工学院」でのインタビュー調査 報告

2010年3月17日～20日、石塚淳子さん、岸あゆみさん(元聖隷クリストファー大学、日本創造学会会員)と共にシンガポールへ行ってきました。目的は、「看護教育における創造性育成に関する研究」の一環で、看護教員及び看護学生に対するインタビュー調査です。訪問先のナンヤン理工学院は7学部を有するPolytechnic(シンガポール政府教育省傘下高等教育専門学校)であり聖隷クリストファー大学と国際交流協定を締結している大学です。看護教員6名、看護学生11名がグループインタビューに応じてくれました。



ここで通訳として一役買ってくれたのが、Ai Girl Tanさん(南洋理工大学教授、シンガポール創造学会会員)です。「留学(東工大学)したのは随分昔で日本語は自信がない」と言いつつ、機知に富んだコメントと絶妙なユーモアで、インタビューの場を盛り上げ、本当に豊かな内容のインタビューとなりました。Ai Girl Tanさんは「今年は無理だけど、来年の日本創造学会研究大会には是非参加したい」と言うことで再会を約束してきました。素敵な出会いに感謝と大満足のシンガポールでした。

(聖隷クリストファー大学 佐藤道子(理事))



## 著作紹介



## 川喜田二郎の仕事と自画像

川喜田喜美子・高山龍三 編著 377頁  
ミネルヴァ書房 本体3,800円＋税 2010年4月出版

**世界を駆け、行動した文化人類学者、発想と変革を説いた、最後の伝言。**

今西錦司や梅棹忠夫らとカロリン諸島や大興安嶺を探検し、ネパールなどへの野外調査をてがけ、「KJ法」という発想法でも知られた文化人類学者、川喜田二郎。その生涯を振り返った文章では、自分の仕事を要約し、さらに言わんとすることをつけ加えている。

また、多分野にわたる友人や弟子たちの見た姿、多彩な生涯とその業績、行動に対する評価なども併せて一冊とし、川喜田二郎の全体像を描き出す。

本書は、本学会の初代会長であり、名誉会長であった川喜田二郎氏の行動・業績・思想・方法に俯瞰を与える待望の1冊である。

構成は、先ず、「川喜田二郎著作集(全14巻)」の各巻の読み応えのあるあとがきを「私の仕事と自画像」として第 部に配している。第 部には、各巻に寄せられた縁の方がたの個性的な川喜田論を集め「川喜田二郎曼荼羅」として氏の人間的な厚みを賛美している。第 部には、本書の編者のひとりである高山龍三氏が各巻に、付録として書いた解説「川喜田二郎の宇宙」を集め、各巻への適切なイントロダクションを与えている。

第 部「川喜田二郎の伝言」には、未発表の彼がチベット文化研究会で、自らの文明論を簡潔にまとめた講演記録「21世紀にチベット文明が寄与するもの」を採録。最後に、氏を支え続けられた筆頭編者である川喜田喜美子夫人の「KJ法の思想 - 川喜田二郎と歩んだ半世紀」で結んでいる。

奇しくも、今秋は、近畿大学大会で、本学会がいよいよ国際的な創造性研究の一翼を担うキックオフの年である。世界の創造性研究は日本にそのオリジナリティーを求めてくる。

本書で、初代会長の先行業績を俯瞰し、自分は何を継承発展させ、乗り越えていくことが出来るかを感じ取るため、本書は、かけがえの無い本学会へ贈られたマイルストーンである。

(第9代目理事長・日本教育大学院大学 林義樹)

## Method for Creating Wisdom from Knowledge - 2009

Edition by Michihiko Esaki Ph.D. - Translated by Chris C. Nishihama

日本資材管理協会 ¥3,150 207頁

2008年に出版した知識から知恵を創り出す方法のネイティブ英語版です。

日本語版より、はるかに広い適用解説でまとめられており(日本語より約70頁増加)、問題解決の方法として、ノーベル賞受賞者のハーバートサイモンの意思決定の科学の方法を超える方法であると翻訳者は評価しています。要点と概要は、下記URLをご参照下さい。(江崎 通彦)

<http://dtn-wisdom.jp/00001-R3E1.pdf>

## 発想と企画の心理学 朝倉書店 3,570円(税込) 高橋誠 編著 208頁

本書は「発想と企画」という極めてビジネス的なテーマを心理学という畑上に載せたユニークな書物である。発想や企画は人間の思考から誕生するものであり、その意味からいって心理学の研究テーマといえる。しかし発想と企画に関連する多様なテーマを心理学的に分析した書物は余り見受けられない。ほとんどはビジネスのハウツウ書が多い。本書ではそのため、執筆者に監修者を始め心理学出身を集めた。本学会の会員も多数執筆している。本書は2部構成で、第 部は「発想のメカニズムとシステム」、第 部は「企画のメソッドと心理学」である。第 部の内容は、発想に絡んだ大脳メカニズム、発想から企画までの手順、発想の技法などである。第 部は企画のための集団心理学、企画技法、文章心理学や説得心理学などである。本書は創造性研究の基本の文献として推薦できよう。(高橋 誠)

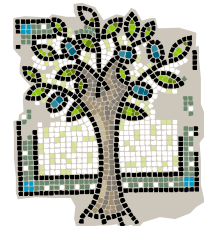
# ← 入退会情報 →

## 新入会員紹介 (申込順・敬称略)

氏名	所属	住所	メールアドレス	専門分野
大石 弘子		静岡県浜松市	toaisu@sea.plala.or.jp	看護教育
高 永才	甲南大学 マネジメント創造学部	兵庫県芦屋市	koh@center.konan-u.ac.jp	イノベーション・組織論
牧野 逸夫	北陸先端科学技術 大学院大学	石川県能美市	bob.makino@gmail.com	知識科学・特許
矢動丸 朗	長崎県立長崎工業 高等学校	長崎県諫早市	aeyk8100@yahoo.co.jp	機械工学
米澤 正雄	東洋大学文学部 教育学科	茨城県取手市	yonezawa@toyo.ac.jp	教育哲学・教育史
漢那遼平(学生)	神戸学院大学大学院 人間文化学研究科	兵庫県神戸市	babybaby@snow.plala.or.jp	臨床心理学
上村 達郎	九州産業大学大学院 ビジネス研究科博士後期課程	福岡県宗像市	tkhm790109@yahoo.co.jp	知識創造理論
新道 仁志	宇部市立 上宇部中学校	山口県山陽小野田市	kazukitomiduki@gmail.com	教育哲学

## 退会者 (敬称略 届け出順)

江川 朗、丸山昭男、齋藤俊則、加藤靖慶、鈴木恭敏、塚本真也、丸山篤芳、小林 務、浮川和宣、伊賀憲子、高瀬修司、津田 征治



## 2009年度論文誌Vol.13 著者名訂正のお知らせ

「KJ法によるバイオマスタウン構想に対する問題の構造化 - 加賀市の意識調査分析事例から -」の著者名に誤りがありました。

**誤) 樽田泰宣      正) 樽田泰宜**

著者ならびに関係者の方々にご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

### 事務局メッセージ

事務局では、皆様からの投稿を募集しております。著作の紹介、研究活動の近況報告など、何でも結構です。投稿は300字以内、著書紹介は100字前後でコメントをまとめてください。掲載希望多数の場合は、事務局で選ばせていただきます。投稿はFAXまたはメールにて受付いたします。

(事務局：比嘉)

### 日本創造学会 ニュースレター

2010年6月発行 (No.2)

日本創造学会事務局

発行人：奥正廣

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0015 千葉県市川市鬼高

4 - 7 - 6 - 816

Tel 080-3465 - 6152 Fax 047 - 314-6380

e-mail : jcs@soken-ri.co.jp

http://css.jaist.ac.jp/jcs/index.html

# 日本創造学会第32回研究大会 参加/発表 申込書

大会の詳細についてはニューズレター記事をご覧ください

送信先Mail jcs@soken-ri.co.jp FAX 047-314-6380

参加者氏名	
所属機関名	
自宅住所	
電話番号	
fax番号	
e-mail (pc)	

## \*\*参加の仕方について\*\*

参加費事前振込	学生会員	正会員	非会員	*発表の方は事前振込のみ
(該当箇所に )	2500円	3000円	4000円	
参加費当日払	学生会員	正会員	非会員	*当日受付にてお支払い下さい
(該当箇所に )	3000円	4000円	5000円	

発表論文掲載料	A4 4枚まで	追加1枚につき 1000円	*現時点で追加分不明の場合は追加分のみ当日払いとなります(受付時に請求)
	2000円	枚 円	

懇親会参加費	事前振込	当日払い	*当日払い希望の方は 受付にてお支払い下さい
	5000円	6000円	

事前振込 総計	円	*総計が記入された振込用紙を事務局よりお送りします 期限内に郵便局よりお振込み下さい。
---------	---	--

例) 正会員参加費事前振込3000円+論文掲載料2000円+懇親会事前振込5000円=合計10000円

当日支払い総計	円	*当日受付で現金でお支払い下さい
---------	---	------------------

例) 正会員参加費当日払4000円+懇親会当日払6000円=合計10000円

## \*\*発表者の方はご記入下さい\*\*

研究発表題目 仮題目の方は(仮)と記入	
------------------------	--

\*該当箇所に

単独責任者発表		通信欄: 質問がありましたらご記入下さい
連名・主発表者となる		
連名の場合の共同研究者名		
1		
2		
3		

E-MAILでお申し込み希望の方は  
1.氏名 2.所属 3.発表の有無 4.懇親会参加の有無 5.事前振込か当日払いか  
上記5項目を明記の上、事務局までお申し込みください。申込書の記入は不要です。